

医学教育分野別評価  
広島大学医学部医学科  
年次報告書  
2023年度提出分

評価受審年度2017（平成29）年

令和5年8月



広島大学

# 医学教育分野別評価 広島大学医学部医学科 年次報告書 2022年度

医学教育分野別評価の受審 2017（平成 29）年度  
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.11  
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32

## はじめに

本医学部医学科は 2018 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別認証を受審し、2018 年 11 月 1 日から 7 年間の認定期間が開始した。

2022 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大が続いたが、オンライン講義が取り入れられ 3 年目となった。感染状況を踏まえ、講義室を定員の 1/2 が対面で実施、残りがオンラインで受講するハイブリッド講義もスムーズに継続実施した。年度後半からは学年によっては対面も再開された。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32 を踏まえ、2022 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32 の転記は省略した。

## 2. 教育プログラム

今年度は医療行動学において、遠隔医療面接、遠隔 3D 外科手技実習（糸結び）、スキルスラボ実習を行い、低学年からの臨床技能習得を目指すカリキュラムとした。

### 2.1 プログラムの構成

#### 基本的水準：適合

医学部は、

- カリキュラムを定めなければならない。(B 2.1.1)
- 学生が自分の学習過程に責任を持てるように、学習意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法/学習方法を採用しなければならない。(B 2.1.2)
- カリキュラムは平等の原則に基づいて提供されなければならない。(B 2.1.3)

#### 改善のための助言

なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教養科目において初修外国語についてこれまで選択肢はドイツ語フランス語のみであったが、卒業時アンケートなどを踏まえ中国語が選択可能となった。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 1 教養履修基準表

## 2.5 臨床医学と技能

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 臨床医学について、学生が以下を確実に実践できるようにカリキュラムを定め実践しなければならない。
- 卒業後に適切な医療的責務を果たせるように十分な知識、臨床技能、医療専門職としての技能の修得 (B 2.5.1)
- 臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分持つこと。(B 2.5.2)
- 健康増進と予防医学の体験 (B 2.5.3)
- 重要な診療科で学習する時間を定めなくてはならない。(B 2.5.4)
- 患者安全に配慮した臨床実習を構築しなくてはならない。(B 2.5.5)

### **改善のための助言**

- 重要な診療科を定義し、十分な期間をとって診療参加型臨床実習を実施すべきである。
- Common diseasesを経験する機会を増やし、プライマリ・ケア教育を充実すべきである。
- 臨床実習で健康増進や予防医学を学生が体験する機会を充実すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

これまで OSCE で不合格だった場合には再教育プログラムを実施しチェックテストに合格することで臨床実習に参加を許可していたが、公的化に対応するため 2022 年度より機構実施追再試に参加することとした。本試験不合格者には再試験前に課題ごとに補習プログラムを実施し、トレーニングを行った。

### **改善状況を示す根拠資料**

- 資料 2 補習プログラム通知文書

## 6. 教育資源

臨床実習における更なる電子カルテの活用や Workplace-based assessment の実施が課題である。

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準：適合

医学部は、

- 教職員と学生のための設備資産を十分に整備して、カリキュラムが適切に実施されることを保障しなければならない。(B 6.1.1)
- 教職員、学生、患者とその家族にとって安全な学習環境を確保しなければならない。(B 6.1.2)

## 改善のための助言

- ・ 学生数増加に見合うように講義室のスペースを拡充すべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本年度では第一講義室、第二講義室、第三講義室、第四講義室をオンライン講義に対応できるよう機材の整備を行い、教養棟の新設を行った。また、遠隔医療を体験できる遠隔医療システムを整備し、1年生の医療行動学の中で外来と講義室を結んだ遠隔医療実習を行った。さらに、遠隔3Dシステムを使用した糸結び実習を行った。

本年度はラーニングマネジメントシステムをBb9からMoodleに一新し、より直感的な操作が可能となった。これに伴い学内外の講師を招き、Moodle操作や活用に関するFDを2回実施した。

PC端末室の整備について検討を行い、今後もCBTが円滑に運用されるよう検討がなされた。

臨床実習においてワクチンを打っていない学生向けに定期的なPCR検査を実施した。(安全な学習環境の確保)

## 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料3 講義室整備資料
- ・ 資料4 遠隔外科スキル実習システム
- ・ 資料5 FD開催状況

## 6.2 臨床トレーニングの資源

### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 利用者の要請に応えるため、臨床トレーニング用施設を評価、整備、改善すべきである。(Q 6.2.1)

## 改善のための示唆

- ・ 臨床トレーニング用施設の評価を確実に行うことが望まれる。なお、ここで求められる「評価」の内容は、「6.2 臨床トレーニングの資源の注釈：『評価』には、保健業務、監督、管理に加えて診療現場、設備、患者の人数および疾患の種類などの観点からみた臨床実習プログラムの適切性ならびに質の評価が含まれる」である。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

昨年度に続きスキルラボの整備を行った。スキルラボの入り口を電子錠にし、使用者の入退室記録が分かるように整備した。また、スキルラボに設置している椅子が老朽化していたことから、新しい椅子を導入した。必要な物品が一覧できるように倉庫の整備を行った。OSCE公的化に向けてOSCE時に必要なマイク・スピーカー・カメラを整備し、新たな動線に合わせた対応を行なった。

またOSCEトレーニング用VRシミュレータ装置(VR OSCE)をさらに整備し、臨床実習や臨床実習入門PGで使用した。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料6 スキルラボ整備一覧

### 6.3 情報通信技術

#### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 教員や学生が以下の目的で新しい情報通信技術を活用できるようにすべきである。
  - 自己学習 (Q 6.3.1)
  - 情報へのアクセス (Q 6.3.2)
  - 患者管理 (Q 6.3.3)
  - 保険医療システムでの業務 (Q 6.3.4)
- 担当患者のデータと医療情報システムへの学生のアクセスを最適化すべきである。(Q 6.3.5)

#### 改善のための示唆

- 診療参加型臨床実習の充実のため、学生の電子カルテ記載を充実させることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 1年生において医療面接や診療技能に関する講義や実習を行った。
- VR OSCE を作成し臨床実習内トレーニングに活用している。また遠隔臨床実習（医療面接、外科手技）を1年生で実施した。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料7 遠隔臨床実習（VRを活用した外科手技及びOSCE対策）

## 7. プログラム評価

卒業生の実績やフィードバックを得ていく仕組みの構築が今後の課題といえる。

### 7.1 プログラムのモニタと評価

#### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 以下の事項について定期的に、プログラムを包括的に評価するべきである。
  - 教育活動とそれが置かれた状況 (Q 7.1.1)
  - カリキュラムの特定の構成要素 (Q 7.1.2)
  - 長期間で獲得される学修成果 (Q 7.1.3)
  - 社会的責任 (Q 7.1.4)

#### 改善のための助言

- 教育課程、教育技法、診療参加型臨床実習の質を包括的に評価することが望まれる。
- プロフェッショナリズムなど、長期間で獲得される学修成果を測定することが

望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

アンプロフェッショナルな行動を取る学生の情報を共有するため、アンプロフェッショナルデータベースを作成し学内での情報共有に努めている。

今後は、アンプロフェッショナルな行動について学内の指針を作成し、学生・教職員に周知する。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・ 資料8 アンプロフェッショナルな学生の共有データベース

### **7.3 学生と卒業生の実績**

#### **基本的水準：部分的適合**

医学部は、

- 次の項目に関して、学生と卒業生の実績を分析しなければならない。
  - 使命と期待される学修成果 (B 7.3.1)
  - カリキュラム (B 7.3.2)
  - 資源の提供 (B 7.3.3)

#### **改善のための助言**

- 使命と期待される学修成果およびカリキュラムについて、学生および卒業生の実績を評価するシステムを整備すべきである。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

卒業生ディプロマポリシー到達度アンケートを実施した。回収率が低く、回収率を高める工夫が必要であった。(結果) 実習や講義、国試対策などについても意見を収集した。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・ 資料9 卒業生ディプロマポリシー到達度アンケート